

## 筑北三村地域自立支援協議会 部会・プロジェクト議事録

部会・プロジェクト名 第2回 暮らし部会	開催日:令和7年9月11日(木) 時間:13:00~15:00 場所:ちくほくシャインカレッジ 図書室
参加者・構成機関名 (参加6名)	
生坂村健康福祉課(部会長竹内)	麻績村住民課(副部会長高野)
筑北村社会福祉協議会みずなら(滝澤)	ちくほくシャインカレッジ(鈴木)
鹿教湯三才山リハビリステーション(山田)	事務局(藤澤)
次第	
①.障がい者の理解を得るためにできること	
次回予定 令和8年2月12日(木) 13:00~15:00 ちくほくシャインカレッジ	

### 報告事項

- 精神障がい者地域生活支援コーディネーター等連絡会議(9/3)

### 会議内容

- ①.障がい者の理解を得るためにできること

#### ①現状など

- 専門用語が分かり難く、現状を知らない人が多い。三村に身近に触れる機会があるとよい。松本や穂高の図書館、役場で障がい者が働いている場が身近にある。知る機会、実際に出会う機会があるとよい。
- 勉強会となると興味のある人しか参加しない。参加の敷居を低くする工夫をして行う。
- 障がい者への偏見がある。関りの無い人には秀でている所も含め伝わらないことが多い。地域で支えるということはどこまでなのか。
- ヘルパーの中には支援中に急に怒り出す人への恐怖があり、障がい特性の理解がしたい。
- 支援者として、「よくなつたね」という声掛けが通院や服薬に影響する場合があり、声かけの難しさを感じる。
- 家族の理解不足で障がい者本人の生活に難しさを感じることがある。家族の理解も大事。
- 障がいを隠したいと思う家族があり、地域に理解が進まない。一人暮らしになり、説明をすると理解して貰えたりする。

#### ②今後

- 障がい特性理解、事例検討を三村の居宅介護事業所ヘルパーを対象に年度内に部会として開催。
- 家族に通所先の見学や家族会の参加を勧める。
- 小・中学生は高齢者との交流が行事等にあるが、障がい者はあまりない。義務教育期間に交流する機会があるとよい。  
→障がい者事業所の見学や体験学習、学校行事の状況の確認。
- 事業者が学校や保育園、近隣との交流イベントを開催するなど理解の機会を持つ。